

令和 7 年第 6 回鋸南町議会定例会議事日程〔総括表〕

令和 7 年 1 月定例会

日程第 1	会議録署名議員の指名
日程第 2	会期の決定
日程第 3	諸般の報告
日程第 4	一般質問[8名] ① 5番 秋山柳三 議員 ② 3番 中村 基 議員 ③ 4番 柴本健二 議員 ④ 2番 篠宮真樹 議員 ⑤ 8番 竹田和明 議員 ⑥ 11番 緒方 猛 議員 ⑦ 1番 東 愛乃 議員 ⑧ 6番 笹生あすか 議員
日程第 5	議案第 1 号 専決処分の承認を求ることについて（令和 7 年度鋸南町一般会計補正予算（第 4 号）について）
日程第 6	議案第 2 号 専決処分の承認を求ることについて（令和 7 年度鋸南町一般会計補正予算（第 5 号）について）
日程第 7	議案第 3 号 水道事業の統合に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
日程第 8	議案第 4 号 鋸南町議会議員及び鋸南町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 9	議案第 5 号 一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 10	議案第 6 号 第 1 号会計年度任用職員の報酬、期末手当、勤勉手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 11	議案第 7 号 鋸南町特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 12	議案第 8 号 一般職の職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 13	議案第 9 号 第 2 号会計年度任用職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第 1 4	議案第 1 0 号	鋸南町水道事業の設置等に関する条例等を廃止する条例の制定について
日程第 1 5	議案第 1 1 号	千葉県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少、千葉県市町村総合事務組合の共同処理する事務の一部廃止及び千葉県市町村総合事務組合規約の変更に関する協議について
日程第 1 6	議案第 1 2 号	安房郡市広域市町村圏事務組合規約の変更に関する協議について
日程第 1 7	議案第 1 3 号	指定管理者の指定について（鋸南町ボランティアセンター）
日程第 1 8	議案第 1 4 号	指定管理者の指定について（町営保田漁港公示施設）
日程第 1 9	議案第 1 5 号	令和 7 年度鋸南町一般会計補正予算（第 6 号）について
日程第 2 0	議案第 1 6 号	令和 7 年度鋸南町国民健康保険特別会計補正予算（第 2 号）について
日程第 2 1	議案第 1 7 号	令和 7 年度鋸南町介護保険特別会計補正予算（第 2 号）について
日程第 2 2	議案第 1 8 号	令和 7 年度鋸南町鋸南病院事業会計補正予算（第 2 号）について
日程第 2 3	議案第 1 9 号	令和 7 年度鋸南町水道事業会計補正予算（第 2 号）について

令和 7 年第 6 回鋸南町議会定例会会期日程表（案）

自 12 月 9 日（火）至 12 月 12 日（金）

会期	月日	曜日	時間	説明
第 1 日	12 月 9 日	火	午前 10 時	開会 会議録署名議員の指名、会期の決定、諸般の報告、一般質問（4名） 散会
第 2 日	12 月 10 日	水	午前 10 時	開議 一般質問（4名） 散会
第 3 日	12 月 11 日	木		休会（議案調査のため）
第 4 日	12 月 12 日	金	午前 10 時	開議 議案第 1 号から議案第 19 号の上程、説明、質疑、討論、採決 閉会

一般質問一覧表

令和7年第6回鋸南町議会定例会

通告順	質問要旨	質問者	答弁者
1	<p>1. 地域での防災関連について</p> <p>昨年3月議会でも取り上げました防災関連について、その後の経緯と問題点をお聞きします。</p> <p>①行政主体の災害時避難行動や避難所の情報を共有する講習会を行うべきだ、という意見が多いが考えはどうか。</p> <p>②7か所ある備蓄倉庫の非常食や備蓄品の保管状態と点検はどうなのか。</p> <p>③全世帯にデジタル通信無線の導入は済んだのか。</p> <p>情報伝達として各地域の連絡網の運用はどうなったか。</p> <p>④過日の避難訓練の総括はどうであったか。</p> <p>防災力向上に十分な成果はあったのか。</p> <p>今後の避難訓練は今までいいのか。</p> <p>⑤地震災害だけではなく台風災害においても防災機能のある施設整備に取り組むべきだと思うがどうか。</p> <p>⑥現実的な状況として車による移動はどう考えているか。がれき一つで車は動けなくなるのではないか。</p> <p>⑦避難所として民間施設との契約はしていないのか。</p>	秋山柳三	町長
2	<p>1. 鋸南町行政職員の「体質強化と人材育成」について</p> <p>近年、鋸南町役場では退職者や休職者の増加に</p>	中村基	町長

	<p>より稼働人数不足が慢性化しています。</p> <p>一方、足元では安房地域の水道統合やごみ処理中継施設の整備といった広域的課題への対応が必要であり、住民からはサービス水準の維持が強く求められ、国からは地方創生など難易度の高い業務が次々と課される中、職員は全力で立ち向かっています。</p> <p>しかしながら、人数の不足感に加え、職場内のコミュニケーション不足や仕事の生産性（定型業務の効率化、課題解決力の向上）が十分に上がらず、職員一人当たりの業務負荷と精神的負荷が増大しています。</p> <p>このままでは将来の鋸南町を担う職員達が弱体化し、行政運営そのものが危うくなることが強く懸念されます。</p> <p>町民の皆様に安心して暮らしていただくためにも、行政の持続可能性を確保することは喫緊の課題と考えます。</p> <p>そこで、4点について見解をお伺いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人員不足への対応について ②仕事の生産性が上がらない原因と対応について ③職場内のコミュニケーション改善への対応について ④今後の人材育成の進め方について 		
3	<p>1. 東京と鋸南町を結ぶ高速船の誘致について</p> <p>我が町は、都会に近く海と山に囲まれ、年末から年始には水仙の花が香り、2月には頬朝桜、3月にはソメイヨシノなどの桜、更には鋸山には周年を通じて多くの観光客が訪れています。</p>	柴本 健二	町長

	<p>一方、夏の海水浴場の入込客数は、議員全員協議会の令和7年8月14日付け地域振興課資料によると、令和6年度は15,315人、令和7年度では7,819人、この2年だけを比較すると、残念ながら7,496人の減、減少率では48.9%と大幅な減少となりました。</p> <p>鋸南町史を見ますと、明治の文豪、夏目漱石が明治22年の学生時代の夏休みに学友4人と房州保田海岸で海水浴を楽しんだことが、時の紀行文「木屑録」に残されています。これが恐らく、房州海水浴の初めであろうとされ、保田海岸には「房州海水浴発祥の地」の記念碑が建立されています。</p> <p>これ以降、明治の終わりから大正時代に移り、保田の成田山歓喜院で、いまでいう臨海学校が開設され、これが団体客を受け入れた最初の施設だったと記されています。</p> <p>更に、昭和に入れると、東京都内の学校の臨海学校や企業の保養所などが町内のあちこちに開設されていきました。</p> <p>明治22年に創業された、東海汽船株式会社は鋸南町内の観光資源である、臨海学校や企業の保養地などの設置、海水浴客の状況はもとより、加えて当時は、大黒山へ上れるエレベーターや水族館・動物園・ゴーカートなどが楽しめる一大遊園地が立地していることに着目し、昭和28年には、竹芝桟橋からの房州航路が開設され、保田・勝山や館山へ多くの海水浴客を運んでいたことが、町史に詳細に記述されています。</p> <p>私は、これら、鋸南町の栄光の時代をこの眼で見た者のひとりとして質問します。</p> <p>①現在、東海汽船株式会社は、東京と館山間を</p>		
--	---	--	--

	<p>75分で結ぶ、高速ジェット船の春のみの季節運航が行われています。ちなみに今年は2月8日から3月30日までの約2か月間行われたと聞いています。</p> <p>そこで我が町としても、町の活性化を目指して、東京と鋸南町を結ぶ海航路の再開を要望すべきと思うがどうか。</p> <p>2. 史跡の源頼朝上陸地碑について</p> <p>竜島海岸に源頼朝上陸に関する二つの石碑が並んであります。向かって左は、史跡源頼朝上陸地碑であり、右は、県指定史跡源頼朝上陸地碑です。左の石碑は、私が子供の頃からあったもので、現在は、石碑の一部が欠落してコケが生えている状況です。右の石碑は、千葉県教育委員会が昭和55年1月吉日に再建したものです。双方の管理者は鋸南町教育委員会と思われます。</p> <p>そこで質問します。</p> <p>①左の石碑の一部欠落部分の修復及びコケ落としは行わないのか。</p> <p>源頼朝の上陸地（碑）を訪れる方がおりますが、町民や来訪した方々の心に留めるような、源頼朝像のモニュメントを造る考えはないか。</p>		
4	<p>1. 鋸南町の人口減少、移住定住施策について</p> <p>鋸南町では移住定住促進の為の施策があり、その施策によりある一定の効果があるとは思いますが、これから鋸南町の人口は益々減少していくと考えられます。</p> <p>人口減少は鋸南町の存続にも繋がる重要な課題</p>	篠宮真樹	町長

	<p>の一つで、この問題を前に進めて行かねばならないと考えます。</p> <p>そこで4点質問します。</p> <p>①これまでにイベントなどで移住定住促進のための取り組みを行っていると思うが、手ごたえや効果はどれ位あったと考えるか。</p> <p>②働く場所や仕事が有るか無いかで鋸南町に移住定住するきっかけになる重要な問題だと思うが、移住して起業したいといった方に対して町独自の支援制度はあるか。又考えはあるか。</p> <p>③移住する場所を選択する場合に遠距離通勤がスムーズに出来るか出来ないかがポイントとなると考えるが、現在鋸南町から公共交通を利用し、都内など遠距離通勤するには大変だと思うがどう考えるか。</p> <p>④移住定住を進めるにはまずは鋸南町を実際に体験してもらうのが一番だと考えるが、町は移住体験が出来るような施設等を造る考えはあるか。</p>		
5	<p>1. 教育の「使命感」の再構築と、非認知能力を育む持続可能な教育体制の確立について</p> <p>全国的に深刻化する教員不足は、当町においても喫緊の課題と認識しています。この教員不足の根本原因は、単に待遇や労働時間だけでなく、国や自治体が進める過度な教育の「合理化」により、教員本来の職務である「子ども一人ひとりと深く関わり、人間を育てる」という使命感が削がれていることにあるとの指摘は重いものです。</p> <p>教員が多忙な事務作業や形式的な業務に追わ</p>	竹田 和明	教育長

<p>れ、最も大切な生徒指導や対話の時間が奪われることで、「非認知能力（意欲、協調性、粘り強さなど）を育む」という教育の根幹が揺らいでいます。</p> <p>本質問では、鋸南町の教育長に対し、この「効率化の波」に対する教育哲学を明確にしていただくとともに、教員が誇りを持って本質的な教育に専念でき、子どもたちが豊かな自然と地域社会の中で「生き抜く力」を育むための、具体的なビジョンと施策について伺います。</p> <p>1) 教育哲学：教員不足の根本原因と「使命感」の再構築について</p> <p>教員不足という現象の背景にある、教育の「精神」に関わる問題に焦点を当てて伺います。</p> <p>①「使命感の希薄化」に対する見解と現状認識</p> <p>教員不足の根本原因として、「過度な合理化により生徒とのかかわりが希薄化し、教員の『人間を育てる』という使命感が削がれています」という指摘について、教育長の見解を伺います。また、この指摘が鋸南町の教職員の士気や定着率に与えている具体的な影響について、どのようなデータや状況で把握しているか、認識を伺います。</p> <p>②教育活動の「聖域」と「切り捨てる業務」の明確化：教員が事務処理や会議ではなく、「非認知能力」の育成や「生き抜く力」を育む本質的な教育活動に時間を割けるようにするため、町としてどのような業務を「聖域」（守るべき業務）として確保し、どのような業務を「徹底的に切り捨てる」のか、その具体的な基準と方針を伺います。</p>			
---	--	--	--

	<p>2) 働き方改革：「対話の時間」の確保と地域協働による教育力の強化について</p> <p>働き方改革を、単なる労働時間削減ではなく、教育の本質を取り戻す機会として捉え直す方策を問います。</p> <p>①「個別的な対話」を創出する業務削減目標：現在進められている働き方改革において、教員が最も重視すべき生徒との「個別的な対話」や「心のケア」に充てる時間を確実に創出するため、具体的な事務作業や会議の頻度、部活動指導時間を削減する具体的な数値目標と、それを達成するための計画を伺います。</p> <p>②地域連携による使命感の充実と教員の負担軽減：学校を地域に開き、地域の多様な人材や活動（例：「農楽クラブあぐり・つー」など）と教員が協働で子どもたちを指導することで、教員が「自分たちだけで全てを抱え込まなくて良い」という安心感と、多様な大人の視点を通じて「教育の使命」を再認識できる機会をどのように創出していくのか、具体的な連携体制の構築状況と今後の計画を伺います。</p> <p>3) G I G Aスクール構想と「非効率」な学びの保障について</p> <p>ICT化の流れの中で、あえて「非効率」な、しかし本質的な学びを保障する町のビジョンを問います。</p> <p>①G I G A活用における「非効率な学び」の重視</p> <p>G I G A端末の導入・活用を進める中でも、</p>		
--	---	--	--

	<p>「すぐに答えが出ない」「手間がかかる」といった、非認知能力育成に不可欠な「非効率な学び」（例：長期間にわたる地域での探究活動、失敗を繰り返す実体験学習など）を積極的に保障し、奨励する教育方針をどのように具体化していくのか。教育長の見解を伺います。</p> <p>②地域課題を活用した非認知能力育成カリキュラムの創設：「チーム香具山」が行う竹林整備や竹資源活用、あるいは地域で発生している獣害対策などの地域の生きた課題を学校教育に組み込み、課題解決能力や粘り強さといった非認知能力を育成するための、鋸南町独自のカリキュラム開発の具体的なビジョンを伺います。</p> <p>③評価制度の見直しと「本質的な教育実践」の評価：教員を評価する際、「効率的な業務遂行」や「数値化できる成果」のみに偏らず、生徒との深い関わりや非認知能力育成のための時間を割いた教員を適切に評価する制度（例：評価項目に「生徒との個別対話時間」や「地域連携による非認知能力育成への貢献度」を加える）を導入する考えはないか、伺います。</p>		
6	<p>1. 第3期鋸南町子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>去る3月に第3期「鋸南町子ども子育て事業計画」発行。第2節に「子育て支援に関する調査結果から見る町民ニーズ」のまとめ。その概要に調査票の配布・回収状況が示されている。</p>	緒方 猛	教育長

中学生は本人を対象に配布、回収したとある。

結果は、

調査対象	配布数	回収数	回収率
就学前児童保護者	98	60	61.2
小学生保護者	157	113	72.0
中学生	131	79	60.3
計	386	252	65.3

であった。

この結果は、町長が本計画の初めに「すべての子供とその家族が安心して、子育てすることが出来る環境づくりを推進する」町として大切なアンケート調査だとしている。

しかし、アンケートの回収結果は60～70%台で、重要な調査の回収率としては余りにも低いと思う。

また、10月に学校から「夢に向かって」の21号が発行された。

学校の通知表とも言える「学校教育に関するアンケート結果」が令和5、6、7年度で、回収率が93.5%、72.6%、63.0%と低下で学校に対する気持ちの表れなのか今回の回収率の63%では保護者全体の評価とは言えなくなり、何とかしたいと追記されている。

そこで事業計画について質問します。

①15ページに記載された「子育て支援に関する調査結果の概要」について、その調査方法、対象、回収率等の状況詳細を再度確認したい。

②回収率が、就学前児童の保護者61.2%、小学生の保護者で72.0%、中学生本人で60.3%と記載があるが、前回調査数値と

	<p>比較し、その変動原因等の見解を伺いたい。</p> <p>2. 遊休農地化する前の管理について</p> <p>遊休農地は現在どのくらいあるのか。高齢化や人口減に伴って一層増加が予想されるが少しでも少なくしたい。信頼できる適当な耕作者が居ればお願いをしたいと考えている人が存在すると聞きます。</p> <p>そこで質問をします。</p> <p>①遊休農地化する前に空家バンクと同じ考え方で、町に届け方式化は出来ないか。</p> <p>②耕作者は、農業関係の高校や大学卒業生を地域おこし協力隊として来てもらう考えはあるか。</p> <p>3. 鋸山先端部の国道127号線のトンネル内部について</p> <p>国道127号線上り側で、鋸南町側範囲で照度不足で急に一瞬暗く見えなくなり歩行者または自転車通行の人が居たら大変危険を感じる場所があります。道路管理者に伝え早急に改善をしてほしいがどうか。</p>		町長
7	<p>1. 鋸南町まちづくり支援事業補助金制度について</p> <p>鋸南町では「魅力的で活力ある鋸南」を創造するため、町民自らが取り組む事業に対してのまちづくり支援事業補助金制度が平成19年度からスタートし、本年度は3団体に補助金の採択がされています。</p> <p>少子高齢化が進み、住民の担い手不足や地域活</p>	東 愛乃	町長

	<p>力の低下が課題とされる中、住民主体の活動やチャレンジを町として支援していく体制は、今後ますます重要になると考えます。</p> <p>制度そのものは町の大切な資源ですが、「存在しているだけ」では機能しません。制度が使われ、続き、広がり、地域に還元されていくことこそが、本来の目的であると考えます。</p> <p>そこで、以下の点について、質問します。</p> <p>①この補助金制度の目的と、町として想定している効果について。</p> <p>②過去5年間の申請数・採択数・不採択数は。</p> <p>③不採択となった案件の主な理由や傾向は。</p> <p>④事業の支援期間は最長3年だが、その後の団体の取り組み状況は。</p>		
8	<p>1. 多文化共生のまちづくりについて</p> <p>鋸南町にも外国人の住民が増えています。町は、総合計画や地域福祉計画・地域福祉活動計画に、国際交流・多文化共生の促進について記し、共生社会の実現を目指しています。</p> <p>そこで、3点質問します。</p> <p>①現在、鋸南町で暮らす外国人はどのくらいいるのか。また窓口などでの対応は、どのように行っているのか。</p> <p>②町に、外国人に特化した相談窓口はあるか。</p> <p>③生活に必要不可欠な情報、特にごみの分別・収集に関してや、防災についての情報の多言語化が必要だと考えるがどうか。</p> <p>2. 職員の待遇改善について</p> <p>人口減少、少子高齢化によって地方自治体が置</p>	笹生あすか	町長

	<p>かれている状況は厳しく、担う業務は年々、多種多様になり、そこで働く職員の負担は増加しています。</p> <p>なり手不足と言われる中、業務内容の見直しも重要だが、職員の処遇改善が必要だと考えます。</p> <p>そこで、3点質問します。</p> <p>①町の正職員と会計年度任用職員の人数、人員配置について町の認識は。</p> <p>②会計年度任用職員の勤務・給与形態はどうなっているか。</p> <p>③勤務形態によって休日手当や時給を上げるなど、給与の見直しが必要と考えるがどうか。</p>	
--	--	--